

留萌市ニシン漁撈調査報告

—留萌市礼受地区のニシン漁撈を中心に—

1995年3月

北海道留萌市

序にかえて

留萌市が、平成4年度から文化庁の国庫補助事業として実施してきた「留萌市ニシン漁撈調査事業」が、平成6年度に3ヶ年間の調査を終え「調査報告書」をまとめることが出来ました。留萌市でのニシン漁は、遠く江戸時代から昭和32年の終焉までニシンの干石場所として栄えましたが、ニシン漁を語る資料の多くは38年の歳月と共に自然の中で風化し、なんら保存対策も講じられることなく経過して来ました。

ニシン漁は、かつて北海道を代表する主要な産業であり、北海道の拓殖期の農業を支えたばかりでなく、江戸時代から本州への魚肥供給により日本農業の発展に大きな役割を果たして来た意義は誠に大きいものがあります。

幸いにも、今回調査対象とした留萌市礼受町の「因佐賀家ニシン漁場」は、弘化元年に現在地で操業をはじめ、昭和32年までの150年余にわたり、ニシン漁業を経営していた旧家であり、建物、敷地、海岸構造物等漁場形態としての原風景は勿論、一括した漁撈具、記録書類の数々が保存されていたもので、その保存状態も極めて良好であります。勿論、保存にあたっては所有者が永年にわたり多くの私費を投じて保管倉庫等の補修に尽力された賜であります。

現在、北海道にはニシン漁を偲ぶ一部の建造物が保存されておりますが、市街化等により当時の漁場環境を窺い知る状態にはなく、さらに各地の資料館等で保管されている漁撈具の多くも複数の漁家からの収集品であると聞いております。

その意味で、今回留萌市が調査した漁撈具等は単一の漁家を使用した一括資料であり、体系的な調査が出来た意義は大きく、文化財的価値も極めて高いものと確信しております。

留萌市としては、漁場全体の整備・保存にも努め、北海道の代表産業であったニシン漁業を経済文化遺産として公開し、後世に伝えたいと考えております。

最後に、今回の調査にご指導、ご協力いただきました文化庁、漁場所有者の佐賀平一郎氏（青森県在住）をはじめ関係機関、実地調査に当たられた方々に心から厚く感謝とお礼を申し上げます。

平成7年3月

留萌市教育委員会教育長 菊池 健

例 言

1. 本書は平成4年度から6年度に実施した北海道留萌市ニシン漁撈調査事業の報告書である。
2. 本調査は、文部省国宝・重要文化財等保存整備費補助金の交付を受けて実施した。
3. 調査の主体は、留萌市教育委員会である。
4. 漁撈具等の図の作成は運上光彦、高橋勝也。写真の撮影は益田克己。船のコガタ線図は斎藤勇。文書資料の整理は今野啓吾がそれぞれ担当した。
5. 漁撈具等の図は諸用具の大きさが一定ではないため、縮尺は不統一である。そのため、図中に測定値を数字で入れてある。なお、単位はmmである。
6. 本書の編集責任は福土廣志にある。なお、各文責は文末に示してある。なお、付編は運上の作成による。
7. 調査した漁撈具については、現在佐賀平一郎氏の所有であるが、本調査終了後留萌市へ寄贈の予定である。
8. 本調査にあたっては多くの諸機関、個人からご指導、ご協力、ご助言を賜った。記して感謝する。

文化庁文化財保護部伝統文化課、北海道開拓記念館、北海道教育庁生涯学習部文化課、北海道教育庁留萌教育局、青森県下北郡風間浦村、青森県下北郡風間浦村教育委員会、青森県立郷土館、北海道立図書館、松前町史編纂室、青森県立図書館、北海道企画振興部経済調査室、北海道立文書館、市立留萌図書館

佐賀平一郎、大島暁雄、服部英雄、増渕徹、木村尚俊、山田健、佐賀タケ、佐賀ゆうこ、林清一、佐藤蔵作、(故)橋本与三郎、山本俊子、船越浅一郎、間山洋八、瀧本壽文、山本俊子、鳴海健太郎、工藤睦男、佐賀松司、佐賀弘次、高橋勝、永田富智、久保 泰、田島佳也、杉本真智子、菊地龍男、運上吉雄、山本富蔵、山田素直、斎藤 勇 (順不同・敬称略)

尚、平成4年に聞き取りに協力願った橋本与三郎氏が平成5年に他界された。慎んでご冥福を申し上げます。

目 次

第1章	緒 言	1
第1節	留萌市及び礼受地区の概要	1
第2節	留萌市礼受地区鯨漁撈調査	1
第2章	調 査	6
第1節	北海道及び留萌における鯨漁	6
第2節	因（カクダイ）佐賀家の留萌での鯨漁場の経営	34
第3節	礼受地区における鯨漁撈具（鯨定置網漁撈具）の調査	87
	～佐賀家漁場所蔵品を中心に～	
第3章	ま と め	272
第1節	佐賀家漁場の一漁期 ～昭和16年佐賀漁場日誌より～	272
第2節	佐賀家漁場景観と漁場付属施設について	286
第3節	因（カクダイ）佐賀家漁場の漁船について	290
第4節	網類及び網類の保存とその状態について	297
第5節	因佐賀家漁場及び当地方で使用された浮具について	307
第6節	因佐賀家漁場で使用された灯火具類について	310
第7節	ま と め	312
付 編		
1.	留萌地方沿岸におけるニシン定置網1ヶ統に要する諸用具調	313
2.	ニシン漁場で使用された漁獲等の呼称単位（昭和16年前後）	319
3.	留萌地方沿岸のニシン漁場における諸用具の呼称と解説	321
4.	留萌地方沿岸におけるニシン漁場用語解説	343
5.	漁場及び漁村で使用される「亭」について	354
6.	調査後における施設別収納品	355

挿 図 目 次

第1図	調査地の位置	2
第2図	ざる網の図（北海道水産調査予察報告）	8
第3図	西蝦夷地場所絵図（江差町史資料編第1巻付図—安政6（1859）年）	10
第4図	留萌郡鯨水産物統計（明治5年～大正6年）	15
第5図	留萌漁業組合業種別業者数（明治20年～明治45年）	17
第6図	ニシン建網の構造	21～22
第7図	礼受村建場図（明治29年）	23～24
第8図	留萌管内の鯨漁業着業数の推移（昭和6年～昭和30年）	27
第9図	鯨漁獲高の推移（明治3年～昭和30年）	29
第10図	全道及び留萌支庁管内の鯨漁獲に対する比率（明治20年～昭和30年）	29
第11図	佐賀漁場定置網着業数（明治20年～昭和33年）	39
第12図	因佐賀漁場生産高（明治26年～昭和12年）	40
第13図	明治28年佐賀漁場生産物比率	42
第14図	明治8年佐賀漁場生産物比率	42
第15図	佐賀漁場全生産額及び1統あたりの生産額（明治26年～大正4年）	43
第16図	Aカード	87
第17図	Bカード	88
第18図	Cカード	89
第19図	漁場準備用具1	150
第20図	漁場準備用具2	151
第21図	漁場準備用具3	152
第22図	漁撈具1	153
第23図	漁撈具2	154
第24図	漁撈具3	155
第25図	漁撈具4	156
第26図	漁撈具5	157
第27図	漁撈具6	158
第28図	漁撈具7	159
第29図	漁撈具8	160
第30図	漁撈具9	161
第31図	漁撈具10	162
第32図	漁撈具11	163～164
第33図	漁撈具12	165
第34図	漁撈具13	166
第35図	漁撈具14	167
第36図	漁撈具15	168
第37図	漁撈具16	169

第38図	漁撈具17	170
第39図	漁撈具18	171
第40図	漁撈具19	172
第41図	漁撈具20	173
第42図	漁撈具21	174
第43図	漁撈具22	175
第44図	漁撈具23	176
第45図	加工用具 1	177
第46図	加工用具 2	178
第47図	加工用具 3	179
第48図	加工用具 4	180
第49図	加工用具 5	181
第50図	加工用具 6	182
第51図	加工用具 7	183
第52図	加工用具 8	184
第53図	その他 1	185
第54図	その他 2	186
第55図	因(カクダイ)佐賀家漁場配置図	287
第56図	コガタ線図 1	292
第57図	コガタ線図 2	293
第58図	コガタ線図 3	294
第59図	コガタ線図 4	295
第60図	コガタ線図 5	296
第61図	因佐賀家漁場ニシン角網(昭和16年大網)各部の名称、使用網地と寸法	298
第62図	因佐賀家漁場ニシン角網(昭和16年中網)各部の名称、使用網地と寸法	300
第63図	手網及び三角網の構造	303
第64図	枠網の構造	305~306
第65図	ニシン角網の綱・沈子・浮子の呼称(昭和5年佐賀家資料による)	309
第66図	佐賀家漁場風景(船着場のセツの状況)	311

表 目 次

表 1	江戸時代末のルルモッペ場所の鯨生産高(安政元年~慶応3年)	11
表 2	留萌郡水産物収獲統計より鯨生産物統計(明治5年~大正6年)	15
表 3	留萌漁業組合業種別業者数(明治20年より明治45年)	16
表 4	全道及び留萌管内鯨漁業着業数(昭和6年~昭和30年)	26
表 5	北海道鯨漁獲高(明治3年~昭和30年)	28
表 6	漁獲高比率(明治20年~昭和30年)	28

表7	佐賀漁場練定置網着業数（明治20年～昭和33年）	39
表8	佐賀漁場生産高（明治26年～昭和12年）	40
表9	一統あたりの生産高（明治26年～大正4年）	43
表10	明治36年佐賀漁場の収支	44
表11	明治42年佐賀漁場の収支	44
表12	「昭和16年因佐賀支店日誌」より	276
表13	因佐賀家漁場ニシン角網（昭和16年大網）各部の名称、使用網地と寸法	299
表14	因佐賀家漁場ニシン角網（昭和16年中網）各部の名称、使用網地と寸法	301

図 版 目 次

図版1	嘉永2（1848）年の礼受 西蝦夷地道中見取図（市立函館図書館蔵） 安政5（1858）年の礼受 北海道歴検図（北海道大学附属図書館蔵）	357
図版2	因（カクダイ）佐賀家漁場全景	358
図版3	練釜を据付た窯跡 船入れ場（セツの杭が残っている。）	359
図版4	番屋正面 番屋（裏から） 番屋（干場から） 建物内部 漁夫の寝台 神棚、仏壇	360
図版5	ト夕倉（製品保管倉） ト夕倉の棟札 内部の漁撈具 内部の漁撈具 2階への階段 2階の網類	361
図版6	廊 下 廊下（浜側より） 内部の漁船 内部の漁船 船 倉 内部の漁船	362
図版7	網 倉 内部の網類	363

	内部の網類	
	2階の文書類	
	岡の上の稲荷社	
	漁場の守神「稲荷社」	
図版 8	杵船から汲船へ漁獲した鯧を汲む ……………	364
	ニシンの運搬（汲船から陸上の廊下へのモッコによる鯧の運搬。）	
	鯧つぶし作業	
	（鯧を裂き、数の子、鰓、白子に選り分ける。鯧は身欠き鯧を作るために納屋場へ持っていき乾燥する。）	
	身欠き鯧乾燥中の納屋場	
	鯧絞め粕作り	
	（鯧釜で煮た鯧は絞め胴に入れられ、圧搾される。下から油と水が流れだし、魚油と水を分離し、魚油となる。絞め胴で圧搾された鯧は玉と呼ばれ、砕かれて乾燥させ、魚粕となる。）	
	魚粕の乾燥風景（苙の上に砕かれて乾燥する。）	
図版 9	定置網を建てる直前の漁船（棧橋が造成されている。） ……………	365
	網起こし	
	大タモによる杵からの鯧汲み揚げ	
	汲船に満載された鯧	
	ニシンの運搬（汲船からポンタモでモッコの中へ鯧をいれ、運搬する。）	
	ニシンの運搬（歩み板の上を歩くモッコ背負い。）	
図版10	大漁に喜ぶ漁夫 ……………	366
	ニシンの運搬（汲船からポンタモでモッコの中へ鯧をいれ、運搬する。）	
	モッコによる運搬	
	鯧漁風景（大正年代）	
	身欠鯧乾燥風景	
	鯧つぶしと納屋場	
図版11	漁場準備用具 ……………	367
図版12	漁場準備用具及び漁撈具 ……………	368
図版13	漁撈具 ……………	369
図版14	漁撈具 ……………	370
図版15	漁撈具 ……………	371
図版16	漁撈具 ……………	372
図版17	漁撈具 ……………	373
図版18	漁撈具及び加工用具 ……………	374
図版19	加工用具 ……………	375
図版20	加工用具 ……………	376
図版21	加工用具 ……………	377
図版22	加工用具及びその他 ……………	378
図版23	その他 ……………	379